

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	膝前十字靱帯再建術後再損傷に関連する因子の検証
所属科*	中央リハビリテーション部
研究責任者*	北口 拓也
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 8 月 1 日 ~ 終了 西暦 2030 年 7 月 31 日 (予定)
対象疾患(予定症例数)	膝前十字靱帯再建術後 (1600 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2005 年 4 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 7 月 31 日
研究概要*	膝前十字靱帯 (ACL) 再建術後には、スポーツや仕事への復帰を目的とした長期のリハビリが必要となりますが、再建側だけでなく反対側の膝も含めた再損傷が一定の割合で発生することが報告されています。再損傷が起これば、痛みの増強や生活の質の低下、スポーツ活動の断念、変形性関節症のリスク増加などの影響が生じる可能性があります。 本研究は、ACL 再建術後の再損傷の実態とその関連因子を明らかにすることを目的としています。対象は、2005 年 4 月以降に大阪労災病院で初回 ACL 再建術を受けた症例とし、術後の再損傷の有無に基づき、同側再損傷群、反対側損傷群、非損傷群の 3 群に分類されます。 調査項目には、年齢・性別などの基本情報、手術・リハビリ・再損傷・スポーツに関する情報、および診療内で実施された膝可動域、筋力、跳躍能力、不安定性評価、質問紙の結果等が含まれます。この研究により、再損傷を起こしやすい特性や機能的特徴が明らかになれば、再損傷予防を目的としたリハビリテーションプロトコルの作成に有益な情報となると考えられます。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	研究実施に関わるデータ等を取り扱う際は、被験者の個人情報とは無関係の番号を付して、連結可能匿名化した上で管理し、被験者の秘密保護を十分に配慮いたします (対応表及び記憶媒体は施設内の施錠された環境で厳重に保管する)。また、研究の結果を公表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行いません。 診療情報の利用を希望されない場合は、下記にお申し出くだ

別紙第 2 号様式

	さい。お申し出による不利益は一切ございません。ただし、すでに解析や公表済みの場合はデータ削除ができないことがありますのでご了承ください。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 中央リハビリテーション部 主任理学療法士 北口 拓也 〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町 1179-3 電話：072-252-3561 Fax：072-255-3349)

*記入必須項目